

乳房温存手術とはどんな手術法か

乳房をきれいに残し、

再発・転移を防ぐためには

腫瘍切除術、四分の一切除術

乳腺の一部だけを切除して、乳房そのものは残す手術法を乳房温存手術といいます。

いちばん小さい手術法が、腫瘍（しりり）切除術（ランペクトミー）といわれるもので、乳がんのしりりだけを取る方法です。周辺に正常組織を少しだけつけて取る場合もあります。

乳房温存手術で最大の方法は、四分の一切除術（クワドランテクトミー）といわれるもので、乳腺を四分の一取る方法です。これは、最初にイタリアでデータが発表された手術

法です。

乳房温存手術といわれるものはみな、この腫瘍切除術と四分の一切除術の間に入ることになります。しかし、四分の一切除術では乳房の形がかなり変わってしまい、乳房を温存する意味が薄れてしまうため、欧米ではだんだんに小さな手術に変わっていきました。

しりりを中心に、なるべく小さく切除し、たとえ乳房の中ががん細胞が残っていても、あとで放射線を照射することで死滅させることができるだろう、という考え方です。

日本でこういう小さな腫瘍切除術を行っている病院があるとしたら、やはり同じ考えに基づいているのでしょうか。

乳腺部分切除術

私の勤務していた（一九七五年～一九九四年）都立駒込病院で行っていたのは、乳腺部分切除術といえるものです。腫瘍切除術と四分の一切除術の間ぐらいの大きさの手術法で、しりりの周囲から1cm以上離して切り取る方法です。こうすることでかなり安全度を高くすることができます。手術中に、切り取った部分の境目（断端）を顕微鏡で見て、境目のがん細胞がない断端マイナスであることを、病理学的に迅速に確かめることで、さらに安全性を確かめています。